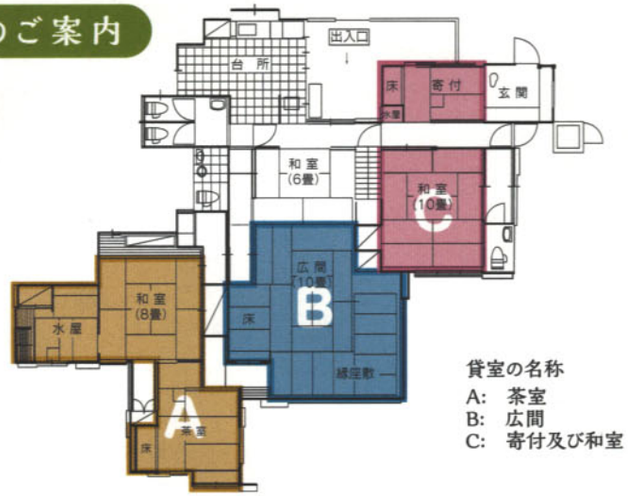
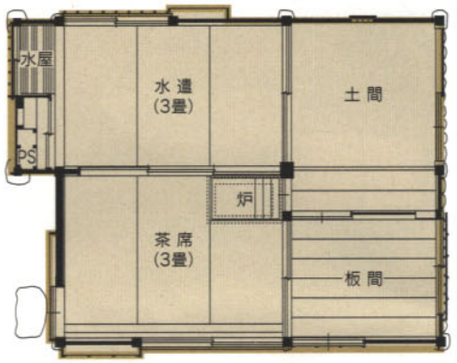
貸室のご案内

老欅荘

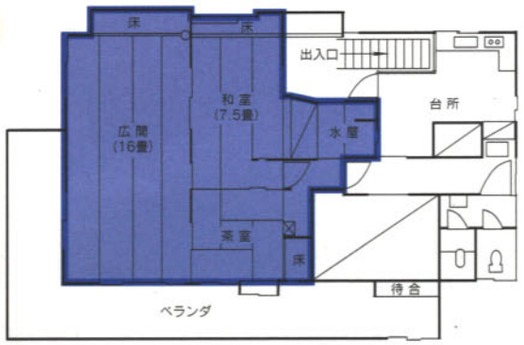


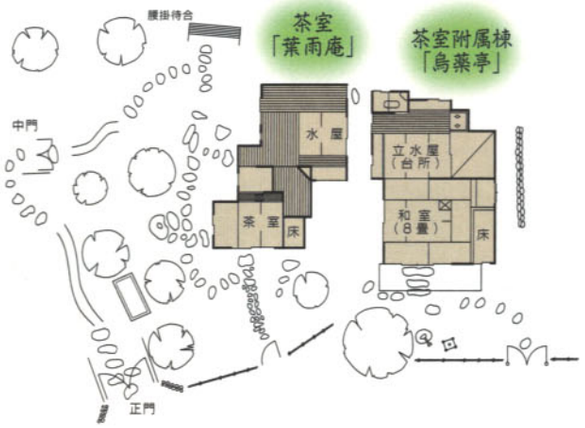
貸室の名称
A: 茶室
B: 広間
C: 寄付及び和室

無住庵



本館2階和室





交通案内

箱根登山線「箱根板橋駅」より徒歩10分
小田原駅より箱根行きバス「上板橋」下車徒歩6分
同バス「板橋」下車徒歩10分

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(午後4時30分入館締切)

入館料 無料(特別展は観覧料が必要な場合があります)

休館日 年末年始(12月28日～1月3日)
臨時休館あり(事前にお問合せください)

電話 0465(22)3635

施設のご使用

松永記念館の各施設(展示室等を除く)は、茶会をはじめ、短歌・俳句の会等、様々な会合にご使用いただけます。(午前9時～午後4時)

お申し込みは、ご使用日の6ヶ月前から受付けております。
詳細はお問合せください。

施設使用料

使用区分		9:00~12:00	13:00~16:00	9:00~16:00
松永記念館	和室(本館2階)	1,000円	1,000円	2,000円
	茶室(葉雨庵)+茶室附属棟(烏薬亭)	1,500円	1,500円	3,000円
	茶室附属棟(烏薬亭)	1,000円	1,000円	2,000円
老欅荘	茶室 (A)	1,500円	1,500円	3,000円
	広間 (B)	1,000円	1,000円	2,000円
	寄付及び和室(C)	1,000円	1,000円	2,000円
無住庵		1,500円	1,500円	3,000円

松永

小田原市郷土文化館分館

松永記念館

無住庵

◆小田原市郷土文化館(本館)
〒250-0014 神奈川県小田原市城内7番8号
TEL 0465(23)1377
FAX 0465(23)0672
◆分館松永記念館
〒250-0034 神奈川県小田原市板橋941番地1
TEL／FAX 0465(22)3635

松永記念館・本館

「電力王」と称され、実業界で活躍する一方で、茶道にも造詣の深かった松永安左ヱ門(耳庵)が、昭和21年(1946)に小田原に居住してから収集した古美術品を一般に公開するため、昭和34年(1959)に財団法人松永記念館を設立し、自宅の敷地内に建てたものです。

耳庵の没後、財団法人は昭和54年(1979)に解散され、敷地と建物が小田原市に寄付されました。昭和55年(1980)に小田原市郷土文化館分館として開館しました。

松永安左ヱ門(耳庵)
(1875～1971)

1階展示室では、耳庵の自筆の書やゆかりの品々などにより、その事績を紹介する常設展を開催。

2階は茶室と広間からなり、茶会や集会などにご利用いただける部屋となっています。広間の床柱には、原三溪から贈られた宇治平等院山門の古材が使われるなど、築造された当時のまま残されています。

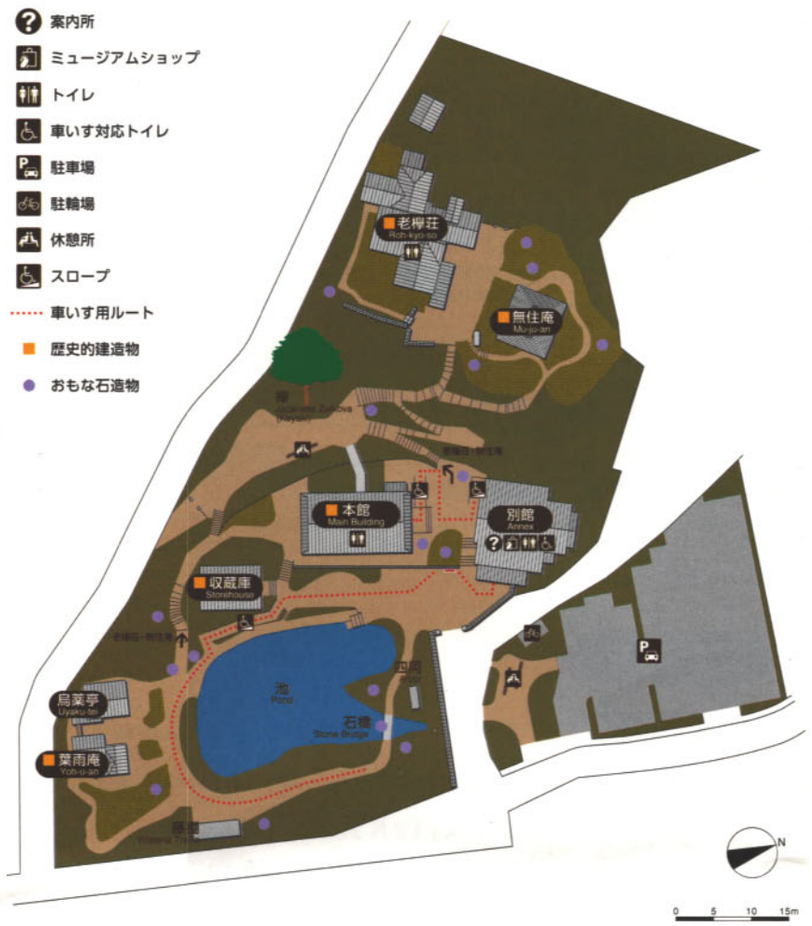
松永記念館・別館

松永記念館の展示部門拡充のため、平成4年(1992)に建設された施設です。小田原ゆかりの作家による作品や、最晩年を小田原で過ごした作家中河与一のコレクションなど、美術作品を中心にテーマを変えながら展示しています。

庭　園

記念館の庭園は、耳庵の好みによるもので、形式にとらわれず自然の趣きを基調としています。

中央に配した池の周囲に散策路がめぐり、西洋シャクナゲや池に浮かぶ睡蓮のほか、菖蒲、藤、椿、梅など、四季折々に咲く花々に囲まれ、所々に奈良・平安時代の石造物が点在する見どころの多い庭園で、「日本の歴史公園100選」にも選ばれた名園です。



案内図データ©株式会社アボック社
著作権は㈱アボック社およびその他の権利者に帰属します。無断転載・転用・改変は禁じられています。

茶室附属棟「烏薬亭」

葉雨庵の利便性を図るため、平成3年(1991)に設けた施設です。建物正面にある小田原地方ではここでしか見られない樹木「天台烏薬」にちなんで名付けられました。

茶室「葉雨庵」

国登録有形文化財

中外商業新報(後の日本経済新聞)や三越百貨店の社長などを歴任した野崎広太(幻庵)によって、昭和3年(1928)頃、諸白小路(現・市内南町)の別荘「自怡荘」内に建てられた茶室です。

昭和61年(1986)に松永記念館敷地内に移築し、公開しています。隣接の附属棟「烏薬亭」と併せて茶会等に利用できます。

老欅荘

国登録有形文化財

耳庵が、昭和21年(1946)に埼玉県柳瀬(現・所沢市)から小田原に移り住むために建てられたもので、その名称は、登り口にそびえる欅の大木に由来しています。

耳庵は夫人とともに晩年をここで過ごすかたわら、多くの茶会を催し、当時の有名な茶人、政治家、学者、建築家、画家などを招きました。最後の数寄茶人とも呼ばれ、益田孝(鈍翁)、原富太郎(三溪)とともに、我が国を代表する近代三茶人の一人として全国的にも有名です。

老欅荘は、四畳半台目の茶室や三畳大の床の間を設けた広間、母屋に取りつく三畳の寄付などの意匠に近代数寄屋風建築としての特徴が見受けられます。小田原市では、建物の補修・保存のため整備工事を行い、平成13年(2001)から一般に公開しています。

「無住庵」

昭和30年(1955)に耳庵が、老欅荘の上段に設えた田舎家で、柳瀬山荘内にあった築200年の農家の古材が用いられています。耳庵の没後、近隣の民家に移築されていましたが、小田原市に寄贈され、令和2年(2020)に移築復原したものです。

天井にかかる大梁、緩い葦簀の化粧天井、長刷入りの土壁などに、素朴な田舎家の風情が表れています。

©濱覚